

のぶしげ やつか 穂積陳重・八束兄弟 — その家族国家論を中心に —



いま世界的に、国家の在り方、家族の在り方、公と私の在り方が、根本的に問われている。そこで、かつて広く信じられ、戦後ほとんどタブー視されてきた「家族国家論」の内容を、代表的提唱者の人物像を通して具体的に解き明かし、その意義を考え直してみたい。

それは、近代法学史上に聳え立つ穂積陳重と穂積八束の兄弟である。兄の陳重博士（安政三年～大正十五年、70歳）も、弟の八束博士（万延元年～大正三年、52歳）も、ヨーロッパに留学して東大で法学を講じて、明治中期に日本的な「民法」などを作成するため多大な貢献をしている。

両博士の法理論は、著しく異なるようにみられやすい。しかし、そのルーツは、生まれ育った伊予宇和島藩で祖父の代から信奉してきた国学にあると思われる。両者の祖先祭祀論などは、門下の広池千九郎や牧野英一たちに大きな影響を与え、今なお有意義な所以も明らかにする。

(写真出典：ウィキペディア)

講師

京都産業大学名誉教授
モラロジー研究所教授

所 功 先生

〔プロフィール〕

昭和16年（1941）12月、岐阜県生まれ。名古屋大学の文学部・大学院修士課程（国史学）卒業後、昭和41年度から皇學館大学教員（9年間）、文部省教科書調査官（6年間）、京都産業大学教授（31年間）、平成24年度から同大学名誉教授・モラロジー研究所研究主幹・麗澤大学客員教授・皇學館大学特別招聘教授など。法学博士（慶大・日本法制文化史）、日本学協会理事など。

【主著】「平安朝宮廷儀式書成立史の研究（国書刊行会）」「菅原道真の実像（臨川書店）」「年号の歴史」（雄山閣出版）「国旗・国歌の常識」（東京堂出版）「歴代天皇の実像」（モラロジー研究所）「皇位継承のあり方」（国民の祝日の由来がわかる小事典）（PHP新書）「皇室典範と女性宮家」（松陰から妹達への遺訓）（勉誠出版）「天皇の〈まつりごと〉」（NHK出版新書）「天皇の人生儀礼」（小学館文庫）「伊勢神宮」（講談社学術文庫）「京都の三大祭」（角川ソフィア文庫）「靖国の祈り遥かに」（神社新報社）など

日時

平成28年9月10日(土)

午後2時～4時（開場 午後1時）

会場

靖国会館（2階 偕行東）遊就館の隣です。

東京都千代田区九段北3-1-1

参加費 1,000円 どなたでも御来聴を歓迎します。学生は無料。

主催・お問い合わせ先

一般財団法人
日本学協会

〒166-0002

東京都杉並区高円寺北1-12-19

TEL.03-3386-0422 FAX.03-3385-0970

Eメール：nihongakukyokai@jcom.home.ne.jp

http://members.jcom.home.ne.jp/nihongakukyokai/